

ひと

「石垣焼」の世界進出を目指す陶芸家

かねこ はるひこ
金子 晴彦 さん(50)



フレンチには白い皿。そんな固定観念に、黒地に青が浮かぶ沖縄の皿で挑む。20日からパリで開かれるインテリアの国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」に自慢の陶器「石垣焼」を出品する。

2年連続の参加。昨年は43カ国約2800社が集まった。石垣焼と世界をつなぐ「信頼できるパートナー」を見つけたのが目標だ。

小6の時、福岡県から一家4人で与論島(鹿児島県)に移り住んだ。父は元特攻隊員。沖縄の復帰前で島は仲間が眠る海に一番近かった。そこで父は土にまみれ「与論焼」を生み出す。「戦争で傷つき、生活に苦しい島を少しでも豊かにしたい」。父の口癖だった。その技と志を継ぐと陶芸の道

に。12年前、土や鉱石が豊富な石垣島に工房を開いた。素焼きした皿の底などに独特の釉薬を塗り、ガラスを敷き詰めて焼く。父譲りの技法だ。さらに石垣島の鉱石などの成分を研究し、ブルーグリーンが美しい焼き物に発展させた。

「最高の物を作っている自信とプライドは誰にも負けない」

夢は二つ。石垣焼と島の名を世界に知ってもらう。そうすれば島に新たな産業を呼べるかもしれない。二つ目は器を手にした人の食卓が笑顔に包まれること。「石垣焼に浮かぶ青は沖縄の海の色。この美しい海で二度と悲しいことがないように」。それは亡き父の願いでもある。

朝日新聞デジタルに動画

文・写真 竹谷俊之

2012年(平成24年)

1月7日

土曜日

七草

天気	6	9	12	15	18	21(時)	
水戸	☀	☀	☀	☀	☀	☀	0 7
宇都宮	☀	☀	☀	☀	☀	☀	0 6
前橋	☀	☀	☀	☀	☀	☀	0 6
さいたま	☀	☀	☀	☀	☀	☀	-1 8
千葉	☀	☀	☀	☀	☀	☀	0 8
東京	☀	☀	☀	☀	☀	☀	0 8
横浜	☀	☀	☀	☀	☀	☀	0 8
甲府	☀	☀	☀	☀	☀	☀	0 7
静岡	☀	☀	☀	☀	☀	☀	-3 9



朝日新聞東京本社

本日の編集長=池内清

〒104-8011東京都中央区築地5-3-2 電話03-3545-0131 www.asahi.com